第1464回放送用語委員会（名古屋）2023年5月19日

“つい使ってしまう言い方”を考え直す

第1464回放送用語委員会が5月19日に名古屋放送局で開かれた。外部委員として久留米大学附設中学校・高等学校長の町田健氏と早稲田大学教授の笹原宏之氏が出席し，名古屋・静岡・福井・富山・津・岐阜の6局が参加した。当日の議論を整理して報告する。

今回の用語委員会では，つい使ってしまう言い方について，放送現場から問題提起や指摘が数多くあった。違和感を持ちながらも使ってしまっている表現があれば問い直し，工夫を続ける必要がある。

◎「容疑者死亡のまま書類送検」について

> 去年8月，名古屋市の名古屋高速道路でバスが横転，炎上した事故で，警察は事故を起こしたバスの当時55歳の運転手を，過失運転致死傷の疑いで容疑者死亡のまま書類送検しました。

「「容疑者死亡のまま書類送検」という言い方は，ニュースでよく使われているが，視聴者に意味が伝わっているだろうか」と，この原稿の担当者自身から問題提起があった。別の局で報道を担当している出席者からは「古くから使われている。違和感を持ちながらも過去の原稿を踏襲して使ったことがある」と放送現場の状況について説明があった。

外部委員からは「「死亡のまま」という表現自体が日常ではあまり使われていないのではないか。死体が横たわったまま書類送検するわけではない。半年，1年かけて調べて書類送検したということである。例えば「容疑者死亡のため」ではどうか」という意見があった。また，検事や法学者に参考意見を聞いたという外部委員からは「「容疑者死亡として」という言い方であれば，実際に行われていることと意味が異なることはあまりないようだ」と指摘があった。

議論を深めていくなかで「容疑者が死亡している」ことと「書類送検した」ことが1文の近いところでわかるようにしてはどうかという意見があり，「事故を起こして死亡した運転手を過失運転致死傷の疑いで書類送検しました」という案が出た。

◎「……を受けて」について

> 亡くなった64歳の男性の遺族は，警察の書類送検を受けて「今後同様の事故が起きないようしっかりと原因を究明してほしい」とコメントしています。

「……を受けて」はニュースとしては聞き慣れた言い方だが，日常会話ではあまり言わない。コメントを出したのは遺族であり，「……について」とするか，あるいは，「警察の書類送検を受けて」を入れないほうがいいのではないか。

出席者からは「「……を受けて」もつい使ってしまっている表現だ。取材者としては書類送検があったから遺族側がコメントを出したという意味を含めて書いているが，「……について」と言いかえてもいいだろう」という意見があった。

「条約の発効を受けて，国内では……」や「……を受けて，○○（政治家など）は……」のように「……を受けて」の対象が公的なものであれば気にならない言い方であっても，遺族や子どもの発言などにつなげる場合は留意したい。

◎「で」で1文にしていいか？

> 現場は住宅が密集する地域で，警察と消防は火事の詳しい原因を調べることにしています。

外部委員から「「で」はとても多義的である。理由を含ませているのか，単に接続しているのか，どの意味なのか気になる」と指摘があった。

この文の「で」の前とあとは，それぞれ別の内容であり関係がない。「現場は住宅が密集する地域です。警察と消防は火事の詳しい原因を調べることにしています」と2文にしたほうがいいだろう。

これについて出席者からは「記者は情報を盛り込もうとして1文が長くなる傾向があり，短い文章に違和感を持つことがある。つながりがないのに1文にしようとするのがくせになっているのであれば改めたほうがいい」という意見があった。

◎「様子も確認できます」について

> NHKが通報からおよそ20分後に撮影した映像では，火事の現場から黒煙が猛烈な勢いで吹き上がり，工場の建物が燃えている様子も確認できます。

「「様子も確認できます」ではなく「燃えています」と言い切っていいのではないか。取材現場で実際に見えたものは「見えました」と言い，取材で事実として確認できたことは「確認できました」というふうに使いわけたほうがよい」と緊急報道で取材リポートの経験があるアナウンサーから指摘があった。

◎字幕をよりわかりやすくする

> ①字幕：特殊な繊維に電流流して吸い取った経血量測り
>
> ②字幕：国立障害者リハビリテーションセンターホームページを参考に作成
>
> ③字幕：警察と消防が火事の原因を調べ

①「字幕で助詞を省くのがテレビの習慣的な“字幕文法”とでもいうようなものになっているのではないか。それでもわかる場合がほとんどだが，「電流流して」のように同じ漢字が連続して，しかも読み方を切りかえなければならないのはわかりにくい。「電流を流して」としたほうがよい」と外部委員から指摘があった。

②「カタカナが20文字ほど並んでいる。ことばのまとまりをおおよそつかんで読むことはできるが，「リハビリテーションセンターのホームページ」というように「の」を入れるだけでかなり読み取りやすくなる」と外部委員から助言があった。

③「○○調べ」であれば気にならないが，まとまった文章の終わりを「調べ」で結ぶのは不自然に感じる。放送現場としては，文字が多いと読みにくくなるので1字でも削りたいということかもしれないが「調べる」としたほうがよい。

◎字幕“名前のルビ”について

外部委員から「名前は漢字だけでは言語としての情報になりきらない。字幕にもう少しふりがなをつけて，読み方も伝えてもらいたい」と意見があった。

出席者からは「よほど読みにくい名前の場合はふりがなをつけている。現状でも字幕がとても多く，さらに名前にふりがなをつけるのは字幕が多くなりすぎるのではないか」という意見があった。

名前にふりがなをつけるべきかどうかについて，放送用語として決まりはないが，リポートなどでの主要な人物については，ふりがなをつけたほうが丁寧かもしれない。

◎名詞化するほど，なじんでいるか？

> 避難した従業員の話では，出火当時工場にいたのは2人だけで，消防によりますと付近の住宅の住民も避難していて，今のところ，この火事によるけが人や逃げ遅れの情報は入っていないということです。

外部委員から「「けが人」は人であり，「逃げ遅れ」は事柄である。2つの名詞を並べる場合には質が同じほうがよい。一方が「抽象名詞」で，もう一方が「具象名詞」というような違いがないほうが自然である」という指摘があった。

消防など火事や災害に関わる人たちにとっては，よく使うことばとしてなじみがあるため「逃げ遅れ」と名詞化しているのかもしれないが，一般にはあまりなじみがないと思われる。放送では「逃げ遅れた人」としたほうがよい。

高橋　徹（たかはし とおる）

第1464回放送用語委員会（名古屋）
【開催日】2023年5月19日（金）
【出席者】町田　健 氏，笹原宏之 氏，
吉野真史 名古屋局長，
千葉聡史 放送文化研究所長ほか